

# 栃木県結核・感染症発生動向調査情報

(サーベイランス)

平成 30(2018)年 3 月(週報第 10 週～第 13 週(3/5～4/1))集計の感染症発生動向調査情報に関する解析結果は次のとおりです。





## 1 感染症解析情報 [3 月は 4 週間、2 月は 4 週間、前年同期は 5 週間での比較となります。]

### (1)概況

ア. 3 月の報告数は次のとおりです。全数(1～5 類)把握疾病は **31 件**(2 月は **38 件**)でした。

定点把握疾病のうち週報疾病(インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点の週報)は **2,945 件**(定点あたり **12.53 件/週**)であり、2 月の **7,861 件**(定点あたり **28.30 件/週**)と比較し、週あたり **0.44 倍**と大幅に低い水準で推移しています。

イ. 栃木県において報告が多かった主な疾病は次のとおりです。(定点把握週報疾病)

疾病名	報告数	前月との比較(週あたり比)	前年同期との比較(週あたり比)
インフルエンザ	<b>1,943 件</b> (週あたり平均 485.75 件)	 <b>(0.28 倍)</b> 前月は 6,985 件 (週あたり平均 1746.25 件)	 <b>(0.56 倍)</b> * 前年同月は 4,334 件 (週あたり平均 866.80 件)
感染性胃腸炎	<b>464 件</b> (週あたり平均 116.00 件)	 <b>(1.17 倍)</b> 前月は 395 件 (週あたり平均 98.75 件)	 <b>(0.75 倍)</b> * 前年同月 769 件 (週あたり平均 153.80 件)

① **インフルエンザ**は、前月に比べ報告数が 0.28 倍と大幅に低い水準で推移しています。前年同期と比べると、報告数で 0.56 倍とかなり低い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較してほぼ同様の水準で推移しています。

② **感染性胃腸炎**は、前月に比べ報告数が 1.17 倍とやや高い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 0.75 倍とやや低い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、やや低い水準で推移しています。

### (2)全数(1～5 類)把握疾病情報(全国)

ア. 1 類、2 類及び 3 類疾病

結核 1,548 件(2 月 1,597 件)、細菌性赤痢 13 件(2 月 22 件)、腸管出血性大腸菌感染症 48 件(2 月 53 件)、腸チフス 3 件(2 月 4 件)、パラチフス 1 件(2 月 3 件)の報告がありました。他の疾病の報告はありませんでした。

イ. 4 類・5 類(上位 6 疾病)

順位	疾患名	件数	前月件数
1	梅毒	455	446
2	百日咳	242	256
3	侵襲性肺炎球菌感染症	226	308
4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	106	116
5	後天性免疫不全症候群	88	105
6	レジオネラ症	67	78

ウ. 栃木県では次の報告がありました。(計 31 件)

結核 17 件、腸管出血性大腸菌感染症 1 件、A 型肝炎 1 件、レジオネラ症 1 件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 件、後天性免疫不全症候群 1 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 1 件、侵襲性肺炎球菌感染症 1 件、梅毒 3 件、破傷風 1 件、百日咳 2 件

## 2 疾病の予防解説

主な蚊媒介感染症であるジカウイルス感染症、デング熱及びチクングニア熱について解説します。

感染症法に基づく4類感染症全数把握疾患です。いずれも、発熱と全身の発疹を特徴とし、ヤブ蚊によって媒介される感染症です。海外で感染した人が、国内で蚊に刺された場合、この蚊を介して感染が広がる可能性があります。これらの疾患が流行している地域に旅行等する場合にも十分注意しましょう。

また、住まいの周囲の水たまり(植木鉢の皿や雨ざらしの用具、屋外に放置されたビン・缶・ペットボトルなど)や下草を除去し、蚊の発生源を減らすことも重要です。

●ジカウイルス感染症の流行地域は、下記の厚生労働省ホームページから確認できます。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000113142.html>

疾病名	原因と潜伏期間	症状	予防対策
ジカウイルス感染症	ジカウイルス 3～12日間	発熱(多くは38.5度以下)、発疹、関節痛、結膜充血等が半数以上に見られ、筋肉痛・頭痛、後眼窩痛、めまい、食欲不振等を伴う場合もあります。多くは重症化することなく回復します。また、感染した母体から胎児への垂直感染により、小頭症等の先天性障害を来す可能性があると考えられています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肌が露出しないようにしましょう。</li> <li>・昆虫忌避剤等を利用しましょう。</li> <li>・妊婦あるいは妊娠の可能性のある場合は流行地への渡航を避けましょう。</li> <li>・性行為でも感染するため、流行地から帰国した場合、最低6か月間は性行為の際に適切にコンドームを使用するか性行為を控えましょう。</li> <li>・流行地から帰国した妊娠を計画しているカップル又は女性は、最低6か月間は妊娠の計画を延期しましょう。</li> </ul>
デング熱	デングウイルス 3～7日間	突然の高熱で発症します。頭痛、眼窩痛、筋肉痛、関節痛を伴うことが多く、食欲不振、腹痛、便秘を伴うことがあります。発症後3～4日後から発疹が出始めます。一部の患者において重篤な症状となる場合もあります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肌が露出しないようにしましょう。</li> <li>・昆虫忌避剤等を利用しましょう。</li> </ul>
チクングニア熱	チクングニアウイルス 2～12日間	発熱、関節痛、発疹が多くにみられ、全身倦怠・頭痛・筋肉痛・リンパ節腫脹、出血傾向(鼻出血や歯肉出血)、結膜炎や悪心・嘔吐を伴うことがあります。重症例では神経症状(脳症)や劇症肝炎が報告されています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肌が露出しないようにしましょう。</li> <li>・昆虫忌避剤等を利用しましょう。</li> </ul>

(参考)国立感染症研究所 ホームページ <http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases.html>  
厚生労働省 ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/>

※予防解説は一般的なことを記載していますので、不明な点は主治医によく相談するようにしましょう。

## 3 その他の参考事項

国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムにより、3月に県内で発生した警報および注意報は次のとおりです。

	第10週 (3/5～3/11)	第11週 (3/12～3/18)	第12週 (3/19～3/25)	第13週 (2/26～4/1)
インフルエンザ	【警報】 県全体 宇都宮市 県西 県東 県南 県北 安足	【警報】 県北		

※国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムは、過去の週ごと・保健所ごとの届出数に基づき、届出数が特に多いとき(およそ上位1%以内)に警報が発生されるよう、疾病ごとに定点当たりの基準値が定められたものです。

※本解析評価は、速報性を重視しておりますので、今後の調査結果等に応じて、変更が生じることがあります。